

「贈る言葉②～最後のホームルーム編～」



【前号からの続き】卒業にあたり、感謝の気持ちを表す「ありがとう」という言葉を卒業生の皆さんに贈りました。

この「ありがとう」という言葉は、もともと「有り難し」が変化したものです。「難し」は、難しいという意味ですから、「有り難し」は「存在することが難しい」。つまり、「めったにない」という意味です。「これは、めったにないことだ」と、心から喜ぶ言葉が「ありがとう」なのです。

考えてみれば、私たちの周りには、奇跡に満ちあふれています。まず、私たちの存在も「有り難し」。奇跡です。私たち人間は、信じられない、奇跡的な確率の中で存在しています。地球の自転のスピードや向き、気温、空気などあらゆる条件が少しでも違っていたら、我々の存在さえも危ういはずですが、これは何か見えない意志が働いている、としか思えません。

いかがでしょうか。私たちは、地球という星に生まれ、生きていることにも「ありがとう」と感謝すべきなのです。そして、その奇跡の存在である卒業生の皆さんと先生方が、本校で出会い、共に学習し、走り、歌い、語り合い、活動した。何もかも、すべてが奇跡なのです。どんなに「ありがとう」といっても、決して言い過ぎることはないのです。

(次頁に続く)





卒業に当たり、感謝の気持ちをおまに素直に表してください。ご指導いただいた先生方へ。君たちを支えてくれた友へ。今まで育ててくださった保護者の方へ。いつも温かく見守ってくださった来賓の方々へ。そして、かけがえのない自分自身へ。心を込めて、「ありがとう」という言葉を贈ってください。



皆さんとの出逢いに感謝しています。本当に、卒業生の皆さん、ありがとうございました。

私たちを取り巻く社会は、予想もつかないほど急激に変化し、多様な価値観の中、国内外において解決しなければならない課題も山積しています。このよう



皆さんが培ってきた「優しさ」を全世界に広めていってください。

